



今回の学校だよりのテーマは「キャリア教育」です。そこで卒業後の生活に向けた12年間の学習のつながりについて、御紹介します。

先日、小学部での授業研究会が行われた際、助言者の先生から小学部から高等部につながるキャリア教育として、次のような話がありました。小・中・高の12年間の中で「~のために、~する」ことを身に付けることが大切です。そのためには小学部の低学年でたくさん楽しむことを知ることで「~が楽しい」という気持ちを育てます。「~が楽しい」という気持ちが育つと、小学部の中学年から「自分で楽しむために~する」という目的を持った行動とがとれるようになります。それが小学部の高学年になると目的が広がり「喜んでもらうために~する」という行動につながります。その積み重ねにより中学部では「周囲の人に認められる」、高等部では「周囲の役に立つ」行動が身に付いていきます。ということでした。

小学部の運動会では、1・2年生は徒競走・障害物競走を行い、自分なりの方法で一生懸命クリアしていく様子が見られました。3・4年生はペアでプリンパフェのフルーツを運び、パフェを完成させ、5・6年生はペアでアムールトマトと三ヶ日ミカンを台風の目で運ぶ集団競技を行いました。ペアを待ったり、ペースを合わせたりして、相手と一緒に楽しむ様子が見られました。また当日の運営では、なかよし委員会のメンバーが運動会を盛り上げました。

中学部の作業学習では、編工芸班、紙工芸班、縫製班、革工芸班の4班に分かれて学習を行っています。縫製班では、清水の自慢をあしらった「しみずのじまんきんちゃく」を、紙工芸班では、中学部の先生方のために名刺を作っています。それぞれの作業を、生徒一人ひとりが一生懸命取り組んでいる姿が印象的でした。

高等部の職場実習報告会では、2・3年生の代表生徒が報告をしました。実習先で学んだこと、これから取り組みたいことを、それぞれの生徒が発表しました。また参加した1年生から実習で気を付けたことや大切にしたことなどの質問が寄せられ、2・3年生がその場で分かりやすく答えました。進路に向けての意識の高さを強く感じました。

本校では12年間を見通した繋がりのある教育活動を展開しています。教育パートナーである保護者の皆様、一緒にお子さんの成長のために取り組んでいきましょう。よろしくお願いいたします。

副校長 鈴木啓和



「進路指導」の基本的な考え方

本校の教育目標は「ともにあゆみ ともにかがやく～児童生徒一人一人が夢を持って可能性を伸ばし、地域で自分らしく生きることをみんなで支援する～」です。児童生徒個々の実態や特性についての的確に把握し、将来の家庭・地域等における豊かな生活につなげられるように、個別の教育支援計画や個別の指導計画をもとに、家庭と共通理解を図り一人ひとりの夢の実現に向けた指導・支援の充実に努めていくよう指導を行っています。

また、自立（各関係機関との関わりを含む）と社会参加をふまえ、小学部・中学部・高等部まで（12年間のつながりを意識した指導の充実）、教育活動全体をとおし、児童生徒が自分の能力・適性を理解し、主体的な進路選択・納得のいく進路決定につなげていけるよう努めています。

<大切にしたいこと>

- 父母、祖父母、兄弟姉妹等の家族とのつながりから、教師、友達、支援者、地域の人々等の家族外の人たちとのつながりへと広げていくこと
- 一人遊びから集団遊び、さらに地域活動、生涯学習活動、同窓会活動等に参加すること
- 家庭内でのお手伝いから家族の一員としての家事労働、そして地域の祭典や奉仕活動等に参加して役割を果たすといった人のために働く経験を重ねること
- 身近な物事や事象等に興味・関心を持つこと（持てるよう促したり、働きかけたりすること）
- 「やりたい」と思う活動を見つけたり、経験したりすること
- 自分の喜怒哀楽、快・不快、思いや考えを適切に表現すること
- 自分の長所、強み、得意なこと、持ち味を知り（知らせ）、これらを磨き高めていくこと
- 社会生活に興味・関心を持ち、将来の夢や希望を明確にしていくこと
- 趣味や自分の好きなことを見つけ、余暇を楽しめること

進路指導課長 小熊信敦

小学部

小学部段階から、将来の進路『自分らしく生き生きと生活する姿』に向けて意識していくことはとても大事なことです。学校生活の中で取り組んでいる、挨拶や日常生活面、係の仕事などが社会的自立・社会参加につながってきます。一つずつ小さな積み重ねをすることで自信を持って生活できるようになり、一人でできるようになることで、さらに挑戦する意欲が生まれます。低学年から毎日コツコツ取り組むことが大切です。

5、6年生になると「(小学部の)みんなのために」を合言葉に、週に1時間の委員会活動に取り組みます。どの委員会も、小学部のみんなが楽しく気持ちよく過ごすことができるように、意欲的に活動に取り組んでいます。6月の小学部運動会では、なかよし委員会のメンバーが開閉会式の司会を務め、任された自分の役割や仕事に責任を持って取り組み、運動会を盛り上げることができました。こうした行事や日々の委員会活動の中での「任された。」「誰かが喜んでくれた。」「みんなが笑顔になった。」という経験や実感を通して責任感や自信が生まれ、将来の主体的に生活する姿につながっていきます。

小学部では、日々の学校生活で授業や身の回りのことを自分で行ったり、友達と一緒に取り組んだりすることが主体的に生活する一歩と考え、教育パートナーである保護者の皆様と連携・協力しながら、一緒にサポートしていきたいと思えます。

小学部進路指導課 小林太一

なかよし委員会



閉会式の司会・進行

日常生活の指導



服を自分で畳む

中学部

2年生「自分を知ろう」 3年生「中学部卒業後の生活」

中学部では、総合的な学習の時間に、進路についての学習を進めています。「自己紹介シート」や学期ごとの目標と評価が積み重ねられた「キャリアパスポート」を使いながら、自分の進路について考えています。

5月には、3年生が「中学部を卒業したらどうしますか？」の問いかけに、自分の進路を考える学習に取り組みました。希望する特別支援学校高等部や分校の進路相談・体験入学では、今までにない緊張を感じたようです。生徒たちは、自身の良さや得意とすることをしっかり見つめています。

2年生は「自己紹介シート」を作成し、「今の自分」は何が好きなのか、どんな夢を持っているのかを友達の前で発表しました。また、6月9日に高等部見学を行い、中学部との違いを見つけたり、高等部1年の先輩にインタビューしたりしてきました。「今の自分」と「すごいと思う先輩」との違いを見つけて、「姿勢をよくする」「言葉づかいに気を付ける」「ハンカチとティッシュをいつも持つ」など、これから頑張ることを決めました。 中学部進路指導課 足立恵子



高等部

高等部では、地域社会で生き生きと暮らす人になるために、『仲間とともに体験的な活動に取り組む』『楽しめることや夢中になれることを見つける』『社会性や感性を高め、夢や自己実現に向け努力する』を目指しています。

高等部では卒業後、自分の良さを活かし、働くこと、地域社会で生き生きと暮らす人を目指し、学習に取り組んでいます。食事、買い物、洗濯、掃除、金銭管理などの家庭生活を中心に、将来的に衣食住の自立を促すような学習に取り組んでいます。また、社会性や感性を高めるためにコミュニケーション力（聞く、伝える、理解する）の向上、他者との友好的関わり方、余暇の過ごし方などを学びます。作業学習では自分の良さに気付き、磨きをかけるために各作業班で製品作りに励み、職場実習では普段の学習で培った力を発揮しています。こうした校内、校外での学習の経験を積み重ね、自分の生き方について考えていきます。

高等部での学習や生活を通して、卒業後の進路を自己決定したり、人との関わりを通じて社会生活を豊かにしたりすることができるように、社会性を高めながら夢の実現に向けて学習に取り組んでいきます。

高等部進路指導課 井村奨太

職場実習（2，3年）の様子



職場見学（1年）の様子



将来につながる健康～体と心の健康を目指して～

健康という言葉を聞くと、風邪や感染症等の病気には患っていない状態を想像するのではないのでしょうか。WHO（世界保健機関）は健康について、「肉体的、精神的、社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない」と定義しています。つまり、健康とは単に病気ではない状態を指すのではなく、肉体的、精神的、社会的（生活の質、幸福感）な側面全てが満たされた状態を意味するのです。今回は肉体的、精神的な健康（体と心の健康）について考えてみたいと思います。

まずは心の健康です。私たちは日常生活の中で様々な悩みやストレスを感じています。適度なストレスは心を強くするために必要ですが、抱えきれないほどのストレスを抱え続けると心の健康が損なわれてしまいます。心の健康が損なわれると、身体の免疫が低下し、病気になるリスクが高まります。心の健康を保つために、①自分の心の状態について知ること②心を回復させるための手段を知っていること（睡眠、食生活、余暇の充実）が重要であるとされています。本校では保健の授業を中心に発達段階や生活年齢に応じて、心の状態や感情、心を回復させる手段について学習しています。夏休み中、整った生活リズムの継続とともに、子どもたちの余暇の充実に向けて様々な体験をしたり、保護者のリフレッシュ法と一緒に体験できたりするといいですね。



次に体の健康です。体が健康であるとエネルギーに満ちあふれ、前向きにパワフルに取り組めます。体の健康を保つために、病気や怪我をしない体力づくりが大切とされています。本校では体育の授業を中心に、子どもたちが楽しく前向きな気持ちで生涯にわたって体力づくりに取り組めるように、運動やスポーツに親しむことを目指して取り組んでいます。運動やスポーツには「する・見る・支える・知る」の様々な親しみ方があります。実際に体験するだけでなく、試合を見る楽しさや、大会運営に参加し競技者を支える楽しさなど様々な楽しみ方があります。夏季休業中にお子さんと一緒に体を動かしたり、スポーツイベントに参加したりして運動に親しみながら、暑さに負けない体力づくりができるといいですね。

☀️ 暑さに慣れていませんか？ ☀️

暑さに慣れていないと、熱中症になるリスクが高まります。暑さに慣れることを暑熱順化しよねつじゆんかと言います。暑熱順化をするために、日常生活の中で適度な運動や入浴をすることで汗をかき、体を暑さに慣れさせましょう。暑熱順化には2週間程度要するとされています。毎日継続的に適度な運動（ウォーキングやジョギングなど）に取り組みましょう。暑熱順化ができていても、数日暑さから離れると暑熱順化の効果がなくなってしまうため、注意が必要です。



体育課長 山崎琢矢

